

医学生から見た内分泌外科 魅力と懸念

堀添恵¹、山下智²、丹羽隆善^{2,3}、内海智玖¹、金子なるみ¹、
林香菜子²、森園亜里紗²、笹原麻子²、佐藤綾花²、田辺真彦²

1) 東京大学医学部医学科

2) 東京大学医学部附属病院 乳腺内分泌外科

3) 獨協医科大学埼玉医療センター 乳腺科

自己紹介

ほりぞえめぐみ

堀添 恵 東京大学医学部 6年

- 2016年(14歳)～ バセドウ病治療中(2回休薬・再発)
→甲状腺に興味を持つ契機に
- 2023年 フリークォーターで乳腺内分泌外科を選択
→以後継続的にご指導いただいています。
- 2024年夏 日本医科大学 杉谷先生, 筑波大学 原先生
のご厚意により見学の機会を頂く
- 現在は選択実習期間中(内分泌外科と内分泌内科を4週間ずつ選択)

内分泌外科の印象

医学生にとって内分泌外科は

「診療内容を想像しにくい」科であると考えられる

「内分泌外科」ということは…
内分泌…対象の臓器は視床下部？下垂体？
甲状腺？副腎？
外科…手術をしそう、でも疾患は？



➡ 進路を検討する際の選択肢にそもそも入りづらい

内分泌外科の魅力

- 
- 手術だけでなく、全人的な医療を学べる
例：甲状腺微小乳頭癌の積極的経過観察、術後フォローでのホルモン補充、血中Ca濃度に基づく薬剤調整

- 
- 生理学的な観点での内分泌の興味深さ
例：ホルモンのフィードバック機構、疾患臓器に留まらない多彩な症状

- 
- 良好なワークライフバランス
例：産休育休を取得しやすい、緊急手術が比較的少ない

1)寺崎梓, 井口研子 他. 日本内分泌外科学会雑誌. 2022;39(2):76-81.

2)佐々木梓. 日本内分泌外科学会雑誌. 2022;39(2):70-75.

内分泌外科への懸念

- 内分泌外科を志望する学生が少ない

→ 切磋琢磨し、経験を共有する仲間がいないことへの不安



- 内分泌外科医や内分泌外科を標榜する病院が少ない

→ 診療科として規模を保てるかへの不安、所属先の限定が人生設計に影響する可能性



- 身近に内分泌外科医のメンターがいない

→ キャリアの相談や想像をしにくい



若手獲得のための提案

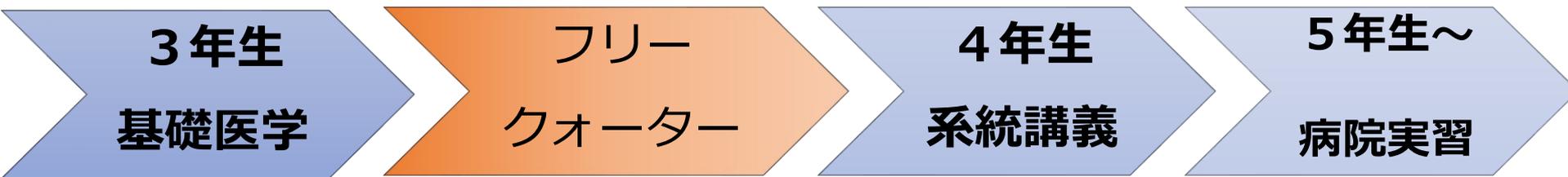
第1の目標：内分泌外科に興味を持つ学生を増やす



手段：学生実習を利用する

- なるべく早期に 志望科が未定でフラットな視点
- 必修プログラムで より広く募ることができる
- 実践的機会の提供 手術見学などは印象に残りやすい

若手獲得のための提案:東京大学のフリークォーター



- 3年生の1～3月に実施
- 4週間程度にわたる必修の実習
- 基礎医学、内科、外科の約50コースから選択
- 手術見学をできる外科系コースは特に人気

- なるべく早期に
- 必修のプログラムで
- 実践的な機会の提供

先ほどの条件を全て満たす

若手獲得のための提案:東京大学のフリークォーター

学生への訴求力が非常に高い

- 基礎医学修了直後の初めての病院実習
- 「生きている人の体内」を初めて目にする感動
- 解剖学で得た新鮮な知識を手術で再確認する楽しさ

 実際にフリークォーターは学生が継続的に教室に通うきっかけとなりうる

- CBT・OSCE前のため、侵襲的な実技はできない
- 定員超過で希望が通らない学生も一定数存在する

若手獲得のための提案

第2の目標：内分泌外科に興味を持つ学生に対して、
具体的にキャリアを相談できる機会を
提供する



手段：学生と内分泌外科医が密に交流できる場を設ける

- 年代の近い内分泌外科医が相手の方がよりキャリアの相談・想像をしやすい
- 出身大学の垣根を超えた内分泌外科医との交流で診療科への理解を深める
- 実習先ではなく 勤務先としての内分泌外科を提示する

結語

- 学生実習などで早期から内分泌外科に触れる
- 共通の志を持つ仲間と交流する機会を設ける
- 内分泌外科医としての将来像を明確にする

以上の取り組みが、内分泌外科志望学生の増加につながると考えられた。